

平成 24 年 10 月 9 日

広報資料

京都府立海洋高等学校
校長 塩見 正典

「和火(やわらび)」 祭りのあと 砂浜に感謝しつつ

宮津の秋の風物詩「和火(やわらび)」イベントが、10月7日から3日間、宮津市街地や寺院などを中心に開催されました。夜の街を彩った約13000個もの手作り灯籠の多くが、ペットボトルに砂を入れ、その上にロウソクを灯したものでした。

そのペットボトルの砂は栗田の浜の砂、そして、砂をペットボトルに入れたのは海洋高校生でした。部活動生徒が中心となり、一週間、放課後の部活動の合間を縫って砂を入れ、トラック3台に積み込み、イベントへと送り出しました。

「和火」が無事大成功に終わった今、ペットボトルが再び海洋高校棧橋に帰ってきました。今週、放課後を利用して、生徒たちが、砂を再び栗田の浜に戻していきます。

海洋高校では、もうしばらくの間、祭りのあとの余韻が残りそうです。



大頂寺石段の灯籠



海洋棧橋に積まれた砂入りペットボトル

海洋高校は、H24「学力向上フロンティア校」「高校生さわやかハート応援プロジェクト」(府教委)の指定校です。

「Be Unique(ユニーク)！ 海洋ならではの挑戦」をテーマとして、社会とのつながりを大切に、活用と自己有用感をとおして「質の高い学力」を磨くキャリア教育・シティズンシップ教育を推進しています。

問い合わせ先

京都府立海洋高等学校
副校長 松下 茂男
電話 0772-25-0331